



(地学と切手)

モンゴルの 古代動物切手



P. Q.

爬虫類をはじめとする古代の動物を主題とした切手はテーマとしても適当の故か 地学関係としては比較的多く発行されているものである。この中でもモンゴル(蒙古人民共和国)は古代動物切手を発行するのにふさわしい国のひとつである。

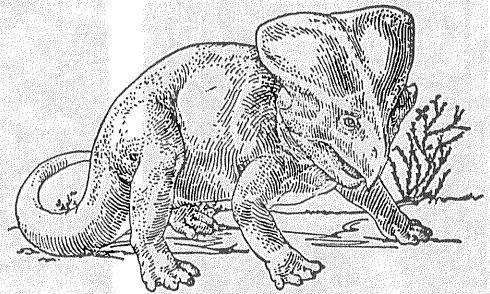
モンゴルが古代とくに白亜紀の動物に由緒があるのは1922年から25年にわたってニューヨークにあるアメリカ自然史博物館が派遣したアンドリュース探検隊によるのが発端である。アンドリュース(Roy Chapman Andrews 1884—1960)は1906年に博物館に入り最初鯨の研究家だったが 後にはアジアの探検を多く行ない 1935年には館長に就任した。アンドリュース探検隊が中央アジアからゴビ砂漠へと入った目的は最初恐竜とは何の関係もなかった。それはアメリカ自然史博物館のオズボーンとマシューとが「中央アジアこそ原人や哺乳類の起源の中心地である」と考察したのにはじまる。これがアンドリュースの想像力をあおった。

自動車とこれを補給するラクダ隊からなる探検隊は赤色砂岩から出来た絶壁が夕空に燃えただっている光景にぶつかり「燃える崖」と名付けた所で角竜の一種プロトセラトプスの卵を発見した。そればかりでなく卵からかえったばかりから完全に成長したものまでの個体さらにその卵を盗む恐竜までが発見された。恐竜の卵の発見が強烈なニュースとなったが それと共に現在の哺乳類の先祖にあたる食虫類のデルタテリジウムも発見された。これらの結果は Natural History of Central Asia across Mongolian Plains として出版された。第二次大戦後1946年から49年にかけてソ連科学アカデミー古生物学研究所が探索隊を派遣した。この探索隊はこれまで北アメリカから知られている かも

はし恐竜サウロロフスを発見した。またアンドリュース隊がデルタテリジウムを発掘した層準は白亜紀でなく暁新世であると考察した。ヌメグト盆地では120tにもおよぶ恐竜の骨を発掘し北アメリカと共に竜の墓地であることを発見した。

最近1963年から65年にかけてモンゴルの古生物学者達は自国の化石に取りくんだ。彼等はポーランド動物学研究所と合同して3回の化石採取を行なった。その結果は暁新世の地層は「燃える崖」にはないことがわかり爬虫類の完全骨格が多く発掘され無数の白亜紀哺乳類を発見した。ポーランドでは現在6人の科学者が分担して爬虫類化石を研究中とのことである(おもに小島郁生 恐竜の時代およびコルバート 恐竜の発見による)。切手は1967年3月31日に8種1組で発行された多色刷である。ロシア語と英語で国名 蒙古語による通貨単位(?)と学名が記されている。

低額から(5)タルボザウルス (10)タララルス (15)卵を前にしているプロトセラトプス コルバートのp. 273には別の復元図がある (20)インドリコセリウム (30)サウロロフス(北アメリカからも発見されているカモノハシ恐竜の1種) 省略した高額には(60)マストドン (80)モンゴロセリウム (1)マンモスが描かれている。



白亜紀恐竜プロトセラトプス(マーガレット・マシュー・コルバートによる復元図)